神奈川自然誌資料 (40): 95 － 102, Feb. 2019

相模湾・東京湾沿岸で記録された ハナゴンドウ（クジラ目：マイルカ科）について

崎山 直夫・鈴木　聡・石井 雅之・藤原 克則・加登岡 大希・樽　創

Tadao Sakiyama, Satoshi Suzuki, Masayuki Ishii, Katsunori Fujiwara, Daiki Katooka and Hajime Taru: Report on Risso's Dolphins (*Grampus griseus*; Cetacea: Delphinidae) Sighted on the Coasts of Sagami Bay and Tokyo Bay

Abstract. Two Risso's Dolphins (*Grampus griseus*; Cetacea: Delphinidae) were recorded in the Sagami Bay in the first half of 2018. The first individual was a young male, with a body length of 2550 mm, stranded on the Katase Nishihama Coast of Fujisawa City on January 28, 2018. The second individual was a male calf with a body length of 1840 mm, found drifting along the Tsujido Higashi Kaigan Coast of Fujisawa City on June 2, 2018. There have been 54 reports of this species from the coasts of Sagami Bay and Tokyo Bay, recorded over 60 years between 1958 and 2018. This study reports on the sighting of the two stray individuals in 2018, as well as presents an overview of the observational records from the past 60 years.

はじめに

相模湾沿岸に漂着する海棲哺乳類については，三浦半島周辺の鯨類（山田・磯貝 , 1992），千葉県を中心とした海獣類（鴨川シーワールド , 1992），神奈川県沿岸の海棲哺乳類（中村ほか , 1994）などそれぞれ報告されている。その後も，樽（2006），崎山ほか（2011）による報告もある。また，国立科学博物館「海棲哺乳類鯨類ストランディングデータベース」（online），日本鯨類研究所の鯨研通信ならびに「鯨類のストランディング (座礁・漂着・漂流・迷入)・定置網混獲－ストランディングした鯨について」（online），石川　創編：下関鯨類研究室報告ストランディングレコード（2013，2014，2015，2016，2017）には，全国のストランディングの記録が蓄積されている。

2018 年前半に相模湾沿岸でハナゴンドウ *Grampus griseus* の漂着が 2 例あり，標本を得る機会を得た。ハナゴンドウは，温帯から熱帯にかけて幅広く分布し，日本の太平洋岸沖合でもっとも頻繁に出現するクジラ目，マイルカ科の一種である（笠松・宮下 , 1991）。水温 13 ～ 28 ℃の水域に出現し，通常 50 頭以下で行動するが，ときとして 100 頭以上の群れをつくることがある（笠松・宮下 , 1991）。出生時の体長は 110 ～ 166 cm と推定されており（水江・吉田 , 1962；Perrin & Reilly, 1984），性成熟に達する体長は，オスで 262 ～ 297 cm，メスで 260 ～ 284 cm，最大体長はオスで 383 cm，メスで 366 cm になる（Perrin & Reilly, 1984）。本種は頭足類と魚類を捕食することが知られており，特にイカ類が主要な食物とされている（木白 , 1997；大泉 , 2008）。個体数や資源量については，水産庁が日本周辺に生息する小型鯨類の一つとして多くの知見を有し，その評価を行っているところだが，本種における系群などの情報はまだ不明瞭なところがある。しかしながら，顕著な減少傾向は見いだせず，稀少性評価としてはランク外としている（水産庁増殖推進部漁場資源課 , online）。また，ワシントン条約（CITES）付属書ではⅡ類に掲載され（CITES, online），国際自然保護連合（IUCN）レッドリストカテゴリーでは低懸念（Least Concern）に選定されている（IUCN, online）。

本報告では，静岡県（伊豆半島石廊崎より東側），神奈川県，東京都，千葉県（南房総市野島崎より西側），伊豆大島より北側で記録（漂着，漂流，混獲，迷入，遊泳）されたハナゴンドウについて，これまでの報告などからその状況を顧みるとともに，2018 年に漂着した 2 個体についての調査概要と計測値をここに報告する。海域の区分は瀬能・松浦（2007）を参考にした。漂着（ストランディ

ング）：死体や生体が海岸に流れ着いたもの。複数個体の漂着はマスストランディング。生存している場合はライブストランディング，漂流：死体や衰弱個体が海上を漂っているもの，混獲：生体が主に定置網といった漁具へ入り込んだもの，迷入：生体が港湾などへの迷いこんだもの，遊泳：生体が遊泳する姿が目視されたもの。

相模湾，東京湾でのハナゴンドウの漂着記録

国立科学博物館の「海棲哺乳類ストランディングデータベース」（online），日本鯨類研究所が出版している鯨研通信（1988，1994，1995，1996，2000，2001a，2001b，2002a，2002b，2003a，2003b，2003c）と，同研究所が公表している「鯨類のストランディング（座礁・漂着・漂流・迷入）・定置網混獲－ストランディングした鯨について」（online），石川　創氏が編集した　下関鯨類研究室報告のストランディングレコード（2013, 2014, 2015, 2016, 2017），山田･磯貝（1992），鴨川シーワールド（1992），ならびに中村ほか（1994）の情報と共に，未発表資料なども加え，静岡県（伊豆半島石廊崎より東側），神奈川県，東京都，千葉県（南房総市野島崎より西側），伊豆大島より北側の相模湾，東京湾におけるハナゴンドウの記録をまとめた（表 1）。体長の表記は元の記載に従った。なお，表 1 のデータで日付と場所が近いものは同一個体の可能性がある。また，各事例に記載されていた備考などの情報は表 1 では省略したため，詳細は出典元を参照のこと。

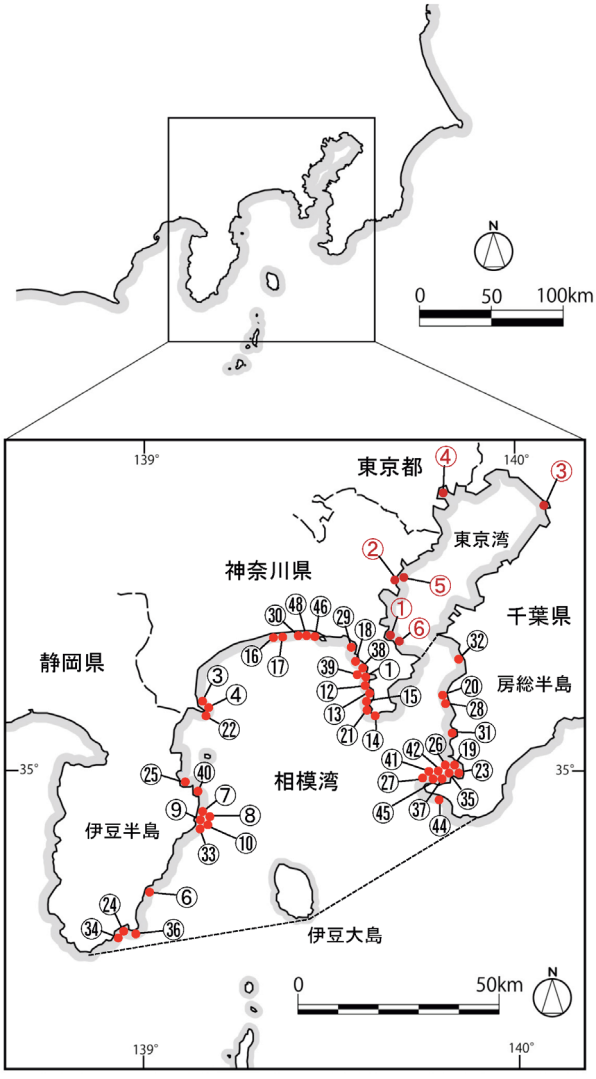

図 1. 相模湾・東京湾におけるハナゴンドウ *Grampus griseus* の記録された場所（表 1 に対応，相模湾 43 ケ所，東京湾 6 ケ所）.

1958 ～ 2018 年の 60 年間に，相模湾では 48 例，東京湾では 6 例の計 54 例の記録（漂着，漂流，混獲，迷入，遊泳）があった。発見時の状況は漂着 30 例，混獲 12 例，迷入 10 例，漂流 1 例，遊泳 1 例であった。発見時の状態は生存 29 例，死亡 21 例，不明 4 例であった。54 例中，記録された場所がおおむね特定できた 49 か所を図 1 に示した。相模湾，東京湾の全域にわたり広く記録はあるが，特に三浦半島西岸と館山湾付近で多かった。時期としては周年記録されているが，4，5，11 月に多く記録されていた（図 2）。体長・体重は記録が残っていたもののみの値を集計したところ，体長は 176 ～ 400 cm，体重は 58.2 ～ 388 kg であった。性別がわかっているものはオス 19 例，メス 11 例，その他は遊泳中の群れなども含めて不明であった。

なお，国立科学博物館の「海棲哺乳類ストランディングデータベース」によると，同期間 1958 ～ 2018 年の 60 年間に，日本国内で 270 件のハナゴンドウの記録がある。

ハナゴンドウ *Grampus griseus*
(G. Cuvier, 1812)
（図 3, 4, 5, 6, 7；表 1, 2）

種の形態的特徴

外形：頭部に明瞭な吻は存在せず，前頭部は丸みを帯びる。しかし，オキゴンドウ *Pseudorca crassidens* やユメゴンドウ *Feresa attenuata* のように吻側への膨らみは経度で直線的である。頭部正中線がくぼんでいることは特徴的である。背ビレは背中の中央部に位置し，相対的に大きく，ほかのイルカに比べて垂直に立つ傾向がある。胸ビレは相対的に長く，先端が尖る。

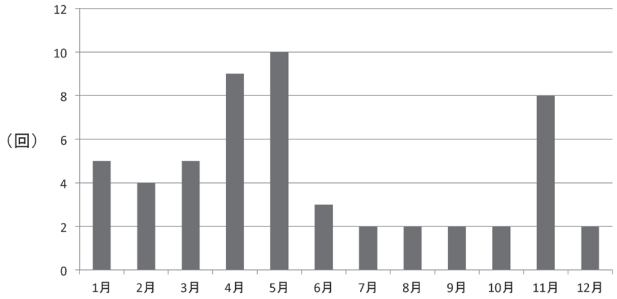

図 2. ハナゴンドウ *Grampus griseus* が記録された月毎の回数.

表 1.　相模湾・東京湾におけるハナゴンドウ *Grampus griseus* の記録（事例番号は，図 1 に対応）

相模湾

事例	年/月/日	場所	状況	生死	個体数	体長	体重	性別	図1	出典
1	1958/7/3	神奈川県 横須賀市長井	漂着	生存→飼育	2	2.5m 3m	150kg 350kg	オス メス		1, 3
2	1971/3/12	千葉県 館山市砂浜	漂着	生存→死亡	1	2.06m	160kg	メス	図示なし	1, 3, 5
3	1981/11/23	神奈川県 足柄下郡真鶴町	混獲(定置網)	−	1	2.44m	174kg	オス		1, 3, 6
4	1985/2/26	神奈川県 足柄下郡真鶴町沖	混獲(定置網)	生存→放流	1	約4m	−	−		1, 3
5	1987/7/8	千葉県 館山市砂浜	漂着	死亡	1	2.73m	−	オス	図示なし	1, 3, 5
6	1987/11/19	静岡県 賀茂郡河津町谷津沖	混獲(定置網)	生存→飼育	2	319cm 293cm	388kg 333kg	オス オス		1, 2, 3
7	1989/9/11	静岡県 伊東市富戸	混獲(定置網)	生存→飼育	1	2.82m	255kg	メス		1, 3, 7
8	1989/11/4	静岡県 伊東市富戸	混獲(定置網)	−	1	2.32m	150kg	メス		1, 3, 7
9	1989/11/6	静岡県 伊東市富戸	混獲(定置網)	生存→飼育	1	2.25m	165kg	メス		1, 3, 7
10	1989/11/27	静岡県 伊東市富戸	混獲(定置網)	生存→飼育	1	2.43m	187kg	オス		1, 3, 7
11	1989/12/21	千葉県 館山市砂浜	漂着	死亡	1	2.72m	−	メス	図示なし	1, 3, 5
12	1991/5/	神奈川県 横須賀市黒崎の鼻	漂着	死亡	1	−	−	−		1, 2, 3
13	1992/5/27	神奈川県 三浦市初声町	漂着	−	1	2.9m	−	−		1, 3
14	1992/9/30	神奈川県 三浦市三崎町三崎港	漂流	死亡	1	2.51m(※)	190kg	オス		1, 3, 4, 6
15	1993/3/31	神奈川県 三浦市三戸浜海岸砂浜	漂着	死亡	1	2.42m	−	オス		1, 3
16	1994/4/17	神奈川県 茅ヶ崎市柳島(相模川河口)	漂着	死亡	1	−	−	−		6
17	1994/5/8	神奈川県 茅ヶ崎市柳島(相模川河口)	漂着	死亡	1	約2.5m	−	オス		1, 2, 3
18	1996/11/21	神奈川県 三浦郡葉山町大浜海岸	漂着	生存→放流	1	2.7m	−	メス？		1, 2, 3
19	1999/11/6	千葉県 館山市館山築港	港内迷入	生存	1	約3m	−	−		1, 2, 3
20	2000/2/9	千葉県 富津市金谷4144-6沖	混獲(定置網)	生存→放流	2	−	−	−		1, 2, 3
21	2001/2/15	神奈川県 三浦市小網代湾	港内迷入	生存	1	約2.2m	−	−		1, 2, 3
22	2001/5/7	神奈川県 足柄下郡真鶴町	漂着	死亡	1	3.1m	−	−		1, 2, 3
23	2002/10/28	千葉県 館山市長須賀地先北条海岸	漂着	死亡	1	2.75m	−	オス		1, 2, 3
24	2003/1/10	静岡県 下田市吉佐美大賀茂川上流50m	漂着	死亡	1	1.76m	114kg	オス		1, 2, 3
25	2003/4/14	静岡県 伊東市松川河口	漂着	死亡	1	約1.8m	−	−		1, 2, 3
26	2003/4/19	千葉県 館山市塩見地先下原港	漂着	生存→飼育	1	2.27m	115kg	オス		1, 2, 3
27	2003/5/30	千葉県 館山市坂田	漂着	死亡	1	2.8m	−	−		1, 2, 3
28	2004/3/7	千葉県 富津市金谷明鐘岬海岸	漂着	死亡	1	約3m	−	オス		1, 2, 3
29	2004/4/23	神奈川県 逗子市新宿2―13逗子海岸	漂着	生存→死亡	1	2.6m	−	オス		1, 2, 3
30	2005/4/17	神奈川県 茅ヶ崎市浜須賀海岸	漂着	生存→飼育	1	2.71m	175kg	メス		1, 2, 3, 7
31	2005/5/21	千葉県 安房郡富山町小浦港西500m	マス・ストランディング	死亡	3	−	−	−		1, 2, 3
32	2005/6/9	千葉県 富津市八幡新舞子海岸	漂着	死亡	1	2.9m	−	メス		1, 2, 3
33	2007/4/1	静岡県伊東市富戸	混獲(定置網)	生存→飼育	1	2.0m	−	オス		8
34	2008/3/30	静岡県 下田市吉佐美	マス・ストランディング	生存→放流	3	−	−	−		1, 2, 3
35	2009/1/20	千葉県 館山市沖ノ島手前の砂浜	漂着	死亡	1	−	−	−		1, 2, 3
36	2010/1/19	静岡県下田市爪木崎	湾内迷入	生存→飼育	1	2.0m		メス		8
37	2011/3/8	千葉県 館山市波佐間沖	混獲(定置網)	生存	2	300-400cm	−	−		1, 3
38	2011/8/10	神奈川県 横須賀市秋谷、関根川河口	漂着	死亡	1	約270cm	−	オス		1, 2, 3, 7
39	2013/1/30	神奈川県 横須賀市佐島港	港内迷入	生存	3	−	−	−		1, 3
40	2013/4/13	静岡県伊東市川奈	混獲(定置網)	生存→放流	3	約3m	−	−		8
41	2013/6/17	千葉県 館山市那古北条海岸	漂着	生存	1	2.46m	−	メス		2
42	2014/5/13	千葉県 館山市坂田	混獲(定置網)	生存→放流4 生存→死亡1	4 1	− 2.88m	− −	− メス		1, 3
43	2015/5/28	千葉県	湾内迷入	生存	40	−	−	−	図示なし	1, 3
44	2016/12/26	千葉県 館山市平砂浦海岸	漂着	生存→死亡	1	1.83m	−	オス		1, 3
45	2017/5/5	千葉県 館山市塩見228-1番地先	漂着	死亡	1	2.5m	−	−		9
46	2018/1/28	神奈川県 藤沢市鵠沼海岸1	漂着	死亡	1	2550mm	−	オス		1, 10
47	2018/2/19	神奈川県 三浦市三崎町城ケ島	遊泳	生存	10	−	−	−	図示なし	1
48	2018/6/2	神奈川県 藤沢市辻堂東海岸付近	漂着	死亡	1	1840mm	58.2kg	オス		10

※ 体長について：出典1では2.51m，出典3，4では2.4mと記載。

東京湾

事例	年/月/日	場所	状況	生死	個体数	体長	体重	性別	図1	出典
1	1965/4/15	神奈川県 横須賀市田浦	迷入	生存→捕獲	1	−	−	−		1, 3
2	1983/8/6	神奈川県 横浜市西区高島埠頭	港内迷入	生存	1	−	−	−		1, 3
3	1989/5/2	千葉県 千葉市千葉港	港内迷入	−	1	−	−	−		1, 3
4	1999/11/20	東京都 港区レインボーブリッジ付近	港内迷入	生存	1	−	−	−		1, 2, 3
5	2003/10/24	神奈川県 横浜市鶴見区大黒埠頭1番地先	港内迷入	生存	1	約2m	−	−		1, 2, 3
6	2015/4/11	神奈川県 横須賀市吉倉町1丁目海上自衛隊横須賀地方総監部敷地内の砂だまり。	漂着	死亡	1	約190cm	−	−		1, 3

出典

1. 国立科学博物館 ホームページ「海棲哺乳類ストランディングデータベース」
2. 日本鯨類研究所 鯨研通信，ホームページ「ストランディングレコードデータ」
3. 石川　創編 下関鯨類研究室報告
4. 山田・磯貝(1992)
5. 鴨川シーワールド(1992)
6. 中村ほか(1994)
7. 新江ノ島水族館による現地確認(未発表)
8. 下田海中水族館(未発表)
9. 群馬県立自然史博物館(未発表)
10. 本報告

体型はがっちりしており，肛門および背ビレから尾側にかけて体幹は急に細くなる。

体色：生まれてまもない個体は，全身均一に灰白色であり，腹側は比較的白い。成長の進んだ幼獣は黒褐色になる。さらに，社会的に成体になると，同種の歯による咬傷痕が白い線状から帯状痕として全身に残るため，加齢個体では体が白色調になる。

歯：上顎に歯はなく，下顎にのみ片側 2 ～ 7 本，合計 4 ～ 14 本の歯を有する。

以上が，笠松・宮下（1991）を中心としたハナゴンドウ *G. griseus* の特徴である。

2018 年の漂着記録

【2018 年 1 月 28 日漂着個体：KPM-NF1 5850】

7：00；一般の方から新江ノ島水族館に，藤沢市片瀬西浜海岸にイルカ漂着ありとの連絡が入る。同館職員が現場確認に赴く。

8：30；現場にて漂着個体を確認した（図 3）。死亡後まだ間もないと推測された。その後，海岸整備作業中の業者により埋却された。著者の一人である石井が再度堀り出し，簡易の計測・解剖を行った。頭部は観音崎自然博物館で骨標本として登録し（標本番号は無し），胴体部分は神奈川県立生命の星・地球博物館標本番号 KPM-NF1 5850 として登録した。

【2018 年 6 月 2 日漂着個体：KPM-NF1 5851】

本個体は 5 月 30 日にライブストランディング後，6 月 2 日に死亡漂着していたのが発見された。

5 月 30 日

早朝；江の島西浦にライブストランディングしているところを一般の方が発見した（図 4）。現場にいた数名で水際まで運び，リリースした。新江ノ島水族館に連絡が入り，同館職員が現場に赴いた。しばらく岸近くを泳いでいたが，徐々に離岸していった。

8：30；筆者の一人崎山が，自力遊泳し徐々に西方に離れる様子を確認。

9：20；筆者の一人崎山が，片瀬西浜沖を遊泳する姿を確認。

14：00；辻堂海岸のサーファーから，すぐ近くにイルカが遊泳している，と新江ノ島水族館に連絡が入ったため，筆者の一人崎山らが現場確認に赴いた。到着時にはサーファーのすぐ近くに背ビレが確認されたが，その後，呼吸に浮上する姿が見られなくなった。早朝に漂着していたものと同一個体かの確証は得られなかったが，その場に遊泳していた個体は死亡したものと推定した。

6 月 2 日

16：30；一般の方から，辻堂東海岸（湘洋中学校地先）にイルカ漂着あり，と新江ノ島水族館に連絡が入る。筆者の一人崎山らが現場に赴いて，死亡した漂着個体を確認した。回収し，神奈川県立生命の星・地球博物館へ移送した。

6 月 3 日

9：00；神奈川県立生命の星・地球博物館にて計測・解剖。5 月 30 日江の島西浦で撮影された画像と体の模様等を比較したところ，同一個体と判断された（図 5）。神奈川県立生命の星・地球博物館標本番号 KPM-NF1 5851 として登録した。

考察

今回報告する 2018 年に漂着した 2 個体の外型は，前頭部は直線的で吻側にふくらんでおらず，頭部前端の正中線がややくぼんでいた。背ビレは背中の中央部に位置し，その大きさは体長に比べて高かった。胸ビレは長く，先が尖っていた。肛門および背ビレから後方は体が急に

表 2. ハナゴンドウ *Grampus griseus* の計測値

	計測部位	単位	2005年4月17日 漂着個体 メス	2011年8月10日 漂着個体 オス KPM-NF1 4648	2018年1月28日 漂着個体 オス KPM-NF1 5850	2018年6月2日 漂着個体 オス KPM-NF1 5851
1	上顎先端-尾鰭分岐部	mm	2680（※）	2764（※）	2550	1840
2	上顎先端-生殖口		–	1536	–	1026
3	上顎先端-背鰭起部前端		1098	–	–	777
4	上顎先端-胸鰭起部前端		510	512	–	364
5	上顎先端-眼		290	320	–	203
6	上顎先端-噴気孔		300	288	–	189
7	上顎先端-口角後端		250	262	–	175
8	噴気孔幅		–	–	–	28
9	眼径		36	–	–	31
10	胸鰭長		584	549	–	331
11	胸鰭幅		160	164	–	104
12	背鰭高		288	258	–	243
13	尾鰭幅		700	742	–	356
14	胴回り		1220	–	–	893
15	体重	kg	185.5	–	–	58.2
16	下顎歯 左＋右（露出）	本	–	2 + 1	3 + 3	0 + 0

※ 国立科学博物館ホームページ「海棲哺乳類ストランディングデータベース」，日本鯨類研究所ホームページ「ストランディングレコードデータ」，下関鯨類研究室報告に報告されている数値とは誤差がある。

「–」は未計測を表す

図 3. ハナゴンドウ *Grampus griseus*（2018 年 1 月 28 日藤沢市鵠沼海岸漂着個体．KPM-NF1 5850. 体長 2550 mm，オス．西谷知佳氏撮影）．

図 4. ハナゴンドウ *Grampus griseus*（2018 年 5 月 30 日藤沢市江の島西浦海岸付近漂着時の様子．この後，リリースする．川邊保孝氏撮影）．

細くなっており，体色は成体では全体に灰色で，白色かすり模様状裂傷痕が無数に認められ，幼体では黒褐色をそれぞれ呈した。全身には，同種の歯による咬傷痕が残っていた。歯は下顎にのみ 0 ～ 6 本確認した。これら特徴は，先に示した笠松・宮下（1991）のハナゴンドウ *G. griseus* の記載によく一致したため，本種と同定した。計数・計測値は表 2 に示した。

ハナゴンドウ *G. griseus* は温帯から熱帯にかけて幅広く分布し，日本の太平洋岸沖合でもっとも頻繁に出現する種の一つである（笠松・宮下，1991）。1958 ～ 2018 年の 60 年間に全国で 270 例の記録があり，相模湾では 48 例，東京湾では 6 例の計 54 例の記録が報告されている（国立科学博物館の「海棲哺乳類ストランディングデータベース」，online；日本鯨類研究所が出版し

図 5. ハナゴンドウ *Grampus griseus*（2018 年 6 月 2 日藤沢市辻堂東海岸付近漂着個体．KPM-NF1 5851. 体長 1840 mm，体重 58.2 kg，オス．6 月 3 日神奈川県立生命の星・地球博物館にて撮影．崎山直夫撮影）．

図 6. ハナゴンドウ *Grampus griseus*（2005 年 4 月 17 日茅ヶ崎市浜須賀海岸漂着個体．体長 2680 mm，体重 175 kg，メス．崎山直夫撮影）．

図 7. ハナゴンドウ *Grampus griseus*（2011 年 8 月 10 日横須賀市秋谷関根川河口漂着個体． KPM-NF1 4648. 体長 2764 mm，オス．樽　創撮影）．

ている鯨研通信，1988，1994，1995，1996，2000，2001a，2001b，2002a，2002b，2003a，2003b，2003c；同研究所が公表している鯨類のストランディング（座礁・漂着・漂流・迷入）・定置網混獲－ストランディングした鯨について」，online，；石川　創編　下関鯨類研究室報告のストランディングレコード，2013，2014，2015，2016，2017；山田・磯貝，1992；鴨川シーワールド，1992；中村ほか，1994；新江ノ島水族館（未発表データ）；下田海中水族館（未発表データ）；群馬県立自然史博物館（未発表データ）；本報告）。伊豆半島東側の川奈・富戸のイルカ漁で本種を捕獲した記録

図 8. ハナゴンドウ *Grampus griseus* の左精巣（2011 年 8 月 10 日横須賀市秋谷関根川河口漂着個体. KPM-NF1 4648. 体長 2764 mm，オス．樽　創撮影）.

は無いようだが（筆者の一人藤原私信），安良里（伊豆半島西岸）のイルカ漁では捕獲記録があり，1957 年に 12 頭，1958 年に 23 頭，1961 年に 132 頭の水揚げがあったことが記録されており（粕谷 , 2011），伊豆半島周辺にはまとまった群れが来遊していることがうかがえた。相模湾内では周年湾内全域に広く記録があり（表 1；図 1），記録された漂着個体の体長は，176 cm（当歳サイズ；稲森氏私信）～最大 400 cm（本種の最大サイズ；笠松・宮下 , 1991）まで達するため（表 1），本種が相模湾に周年にわたって，若齢から成体個体まで生活域として利用していると考えられた。大規模な回遊は知られておらず，周年ある海域を生活域にするようだが，東部北太平洋では夏の高水温時に生息域の北部に移動する例が，カリフォルニア南部では夏に大陸棚にある浅瀬へ移動する例がある（木白 , 1997）。相模湾，東京湾の海岸に 4，5，11 月に漂着記録が多いことは繁殖行動や回遊動態に関係している可能性もあるが，さらなる調査が必要である。

今年漂着した個体については，1 月 28 日漂着個体（KPM-NF1 5850）は，体長 2550 mm のオス。体色は全体的に黒褐色で，吻部，下顎，胸鰭前部，背鰭下部から生殖孔にかけての腹部が白みを帯びるとともに白い傷模様が見られた。腹部の生殖孔周辺も白みを帯びていた。歯は下顎に左右 3 本ずつ認められた。頭部後方，背ビレ下の体幹部および腹部に痩せを示す所見が観察された。著者の一人石井が簡易解剖したところ，皮脂厚 23 mm ～ 17 mm で，筋肉は削痩しているが皮脂は健常個体と同等と考えられた。肺と心臓に感染症の痕跡，胃に出血の痕跡があった。精巣の長さは 16 cm であった。主胃にイカ顎板が多数みられた。以上，体長や体色等の様子からの未成熟オスと考えられた。本個体の頭骨は観音崎自然博物館に，それ以外の骨格は神奈川県立生命の星・地球博物館に標本番号 KPM-NF1 5850 として保管された。

6 月 2 日漂着個体（KPM-NF1 5851）は，体長 1840 mm のオス。体色は全身に黒褐色で，1 月 28 日漂着個体（KPM-NF1 5850）より明らかに白い傷模様は少なかった。生殖孔付近は白味を帯びていた。本個体は体長（水江・吉田 , 1962；Perrin & Reilly, 1984）および飼育下個体の経験（稲森氏私信）から，当歳子個体と考えられた。そのためか，下顎に萌出した歯は認められなかった。喉部にダルマザメによる咬傷と考えられる深いえぐれた傷が確認された。吻先，下顎，眼周辺，頭部後方，胸部，各鰭，尾柄部の表皮が剥離していた。漂着個体の傷み具合として，2018 年 6 月 2 日漂着個体の 5 月 30 日の部分に記した通り，同日に死亡したとすると，死後 4 日で上記程度の表皮剥離が見られたことになる（図 7）。この 4 日間，水温は 20.8 ～ 21.2 ℃，気温は 18.3 ～ 26.9 ℃（漂着現場から 2 ㎞弱に位置する新江ノ島水族館での計測値）であった。

本報告の 2 個体は今までも記録が多いオス個体であった。体長は，1 月 28 日漂着個体（KPM-NF1 5850）はこれまで報告されている漂着個体の平均的数値であり，6 月 2 日漂着個体（KPM-NF1 5851）は当歳子個体を示す値であった。体重はこれまでの記録の中では最小値であった。1 月 28 日漂着個体（KPM-NF1 5850）の主胃内には多数のイカ顎板が発見されており，イカ類を餌としている（木白 , 1997；大泉 , 2008）これまでの報告を支持した。

今回，湾内での本種の記録をまとめるにあたり，表 1 中の 2005 年 4 月 17 日茅ヶ崎市浜須賀海岸漂着個体（図 6），ならびに 2011 年 8 月 10 日横須賀市秋谷関根川河口漂着個体（KPM-NF1 4648，図 7）の画像および主な外部計測値（表 2）をあわせて掲載した。表 1 と表 2 で体長に差が見られるが，速報で出された情報と解剖時の計測で誤差が生じたものと考えられた。2011 年 8 月 10 日漂着個体は，体長 270 cm あまりで（Perrin & Reilly, 1984），右の精巣並びに精巣上体に精液を確認された（図 8, 9）ことから，本個体は成熟個体であると

図 9. ハナゴンドウ *Grampus griseus* の右精巣（2011 年 8 月 10 日横須賀市秋谷関根川河口漂着個体. KPM-NF1 4648. 体長 2764 mm，オス. 樽　創撮影）.

考えられた。西脇（1965）は，飼育下の例では分娩は春と秋にあり，妊娠期間が 14 か月前後と報告している。相模湾近海での交配時期が夏頃にもある可能性が考えられるが，さらに調査が必要であろう。

日本の太平洋岸沖合でもっとも頻繁に出現する種であり（笠松・宮下 , 1991），相模湾を生活場所として周年利用していることが本報告でも示唆された本種であるが，こうした海生哺乳類の生態を野外で調査することは難しく，標本から形態や内部器官を見る機会も限られている。本種に限らず今回のように漂着個体から得られる情報，資料は多い。生死に関わらず漂着の際に様々な研究者・機関と共同で対応することで，有益な資料・記録を残せる可能性が高くなる。今後も機会があれば多くの情報・資料を残していきたい。

謝　辞

本種の画像を提供していただいた川邊保孝氏，本種の成長について有益な情報をいただいた太地町立くじらの博物館の副館長桐畑哲雄氏，稲森大樹氏，データを提供していただいた国立科学博物館，日本鯨類研究所，下関海洋科学アカデミー鯨類研究室の石川　創博士，八景島シーパラダイスの坂井泰拓氏，観音崎自然博物館の学芸部長山田和彦氏，群馬県立自然史博物館の木村敏之博士，標本処理に協力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の相川　稔氏ほかボランティアの皆様，報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館館長の竹嶋徹夫氏，堀　一久氏，西谷知佳氏はじめ展示飼育部の諸氏，下田海中水族館の皆様に感謝の意を表する。また，原稿改訂に有益な助言を与えられた東海大学の大泉　宏博士，千葉県立中央博物館の宮川尚子博士，ならびに査読者の方に対して御礼申し上げる。

引用文献

Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora (CITES), online. *Granmpus griseus*. https://cites.org/eng/node/21993 (accessed on 2018-Octorber-20).

International Union for Conservation of Nature and Natural Resources (IUCN), online. Risso' s Dolphin, *Grampus griseus*. Red list, https://www.iucnredlist.org/species/9461/17386190 (accessed on 2018-Octorber-20).

石川　創・後藤睦夫・茂越敏弘 , 2013. ハナゴンドウ . 日本沿岸のストランディングレコード（1901 ～ 2012）下関鯨類研究室報告 , (1): 162–171.

石川　創（編）, 2014. ストランディングレコード（2013 年収集）下関鯨類研究室報告 , (2): 21–43.

石川　創（編）, 2015. ストランディングレコード（2014 年収集）下関鯨類研究室報告 , (3): 28–49.

石川　創（編）, 2016. ストランディングレコード（2015 年収集）下関鯨類研究室報告 , (4): 33–58.

石川　創（編）, 2017. ストランディングレコード（2016 年収集）下関鯨類研究室報告 , (5): 28–49.

鴨川シーワールド , 1992. 海獣類の漂着記録 . 鴨川シーワールド報告Ⅰ , 業績集 , pp. 347–349.

笠松不二男•宮下富夫 , 1991. ハナゴンドウ . 鯨とイルカのフィールドガイド , pp.94–95. 東京大学出版会 , 東京 .

粕谷俊雄 , 2011. イルカ－小型鯨類の保全生物学 . 640 pp. 東京大学出版会 , 東京 .

木白俊哉 , 1997. ハナゴンドウ . 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅳ）: 418–425.

国立科学博物館 , online. 海棲哺乳類ストランディングデータベース https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php（accessed on 2018-July-5）

水江一弘・吉田主基 , 1962. 九州西方海域産小型歯鯨類の研究 - Ⅷ : 長崎県の五島で捕獲されたハナゴンドウについて . 長崎大学水産学部研究報告 , (12): 45–52.

中村一恵・山口佳秀・平田寛重・浜口哲一 , 1994. 神奈川県沿岸産海棲哺乳類目録 . 神奈川自然誌資料 , (16):1–9.

日本鯨類研究所 , online. 鯨類のストランディング (座礁•漂着•漂流・迷入) ・定置網混獲－ストランディングした鯨について　ストランディングレコードデータ . 1996 年～ 2005 年 .

http://www.icrwhale.org/zasho2.html（accessed on 2018-July-5）
日本鯨類研究所, 1988. ストランディングレコード9, 鯨研通信, (372): 7–8.
日本鯨類研究所 , 1994. ストランディングレコード（1994 年 1 月～ 8 月）, 鯨研通信 , (383): 17–18.
日本鯨類研究所 , 1995. ストランディングレコード（1994 年 12 月～ 1995 年 6 月受付）, 鯨研通信 , (386): 17–18.
日本鯨類研究所 , 1996. ストランディングレコード（1996 年 9 月～ 1996 年 11 月受付）, 鯨研通信 , (392): 28.
日本鯨類研究所 , 2000. ストランディングレコード（1999 年 11 月～ 2000 年 4 月受付）, 鯨研通信 , (406): 25–28.
日本鯨類研究所 , 2001a. ストランディングレコード（2000 年 12 月～ 2001 年 2 月受付）, 鯨研通信 , (409): 20–24.
日本鯨類研究所 , 2001b. ストランディングレコード（2001 年 5 月～ 2001 年 6 月受付）, 鯨研通信 , (411): 24–28.
日本鯨類研究所 , 2002a. ストランディングレコード（2002 年 5 月～ 8 月受付）, 鯨研通信 , (415): 30–38.
日本鯨類研究所 , 2002b. ストランディングレコード（2002 年 9 月～ 11 月受付）, 鯨研通信 , (416): 20–24.
日本鯨類研究所 , 2003a. ストランディングレコード（2003 年 3 月～ 5 月受付）, 鯨研通信 , (418): 24–30.
日本鯨類研究所 , 2003b. ストランディングレコード（2003 年 6 月～ 8 月受付）, 鯨研通信 , (419): 26–32.
日本鯨類研究所 , 2003c. ストランディングレコード（2003 年 9 月～ 11 月受付）, 鯨研通信 , (420): 21–24.
西脇昌治 , 1965. ハナゴンドウ科 . 鯨類・鰭脚類 , pp. 280–284. 東京大学出版会 , 東京 .
大泉　宏 , 2008. 第 6 章 日本近海における鯨類の餌生物 . 東海大学自然科学叢書－ 3 鯨類学 , pp. 197–237. 東海大学出版会 , 秦野 .
Perrin, W. F. and Reilly, S. B., 1984. Reproductive parameters of dolphins and small whales of the family Delphinidae. Reports of the International Whaling Commission, Special issue (6): 97–133.
崎山直夫・萩原清司・村石健一 , 2011. 横須賀市笠島に漂着したコマッコウ（クジラ目：コマッコウ科）について . 横須賀市博物館研究報告（自然）, (58): 43–45.
瀬能　宏・松浦啓一 , 2007. 相模湾の魚たちと黒潮－ベルトコンベヤーか障壁か－. 相模湾動物誌 , 国立科学博物館叢 6, 国立科学博物館編 , pp. 121–133. 東海大学出版会 , 東京 .
水産庁増殖推進部漁場資源課 , online. 整理番号 89 クジラ目マイルカ科ハナゴンドウ . 海洋海洋生物レッドリストの公表について . http://www.jfa.maff.go.jp/j/sigen/20170321redlist.html（accessed on 2018-August-25）
樽　創 , 2006. 2005 年のストランディングから . 自然科学のとびら , 12(3): 20–21.
山田和彦・磯貝高弘 , 1992. 三浦半島周辺における鯨類のストランディングレコード . 京急油壺マリンパーク水族館年報 , (16): 24–28.

崎山 直夫・加登岡 大希：新江ノ島水族館
鈴木　聡・樽　創：神奈川県立生命の星・地球博物館
石井 雅之：日本セトロジー研究会
藤原 克則：下田海中水族館